

水産文庫
臨時増刊

海獸魚皮鞣製法

東京 水産書院

64

64
T

序

陸獸ノ皮革ニ於ケル其ノ利用已ニ尙シト雖海獸ノ皮革
ニ於ケル概ネ委棄シテ顧ミラレス蓋シ臘虎膾舘獸ノ如
キ貴重毛皮ヲ除キテハ需用ニ供セラルルモノ極メテ罕
ナレハナリ然レトモ海驢海豚若ハ或ル種ノ魚皮ヲ鞣製
シテ利用スヘキモノナキニ非ラス本所茲ニ見ル所アリ
試験ニ從事シ研究生谷村重忠刻苦研鑽多年頗ル得ル所
アリ實驗ノ傍内外ノ書ヲ涉獵シ此書ヲ編ス予其ノ勤勉
ヲ多トシ印刷シテ卒業ニ從事スル者ノ參考ニ資スト云
爾

大正二年十一月



水産講習所長 下 啓助

九〇—一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九四〇	九四〇	八一七	八九八	九五七	九三三
沸騰三〇分	九三七	九八一	九〇六	九二八	七四八	—	—	—
右ノ結果ニヨリ右各種單寧材料ノ浸出適温ヲ求ムレハ次ノ如シ								一〇〇〇

懈皮

- 「ミロバラン」
- 「バロチア」
- 「ミモ一サ」皮
- 「スマツク」
- 「ケブラチヨ一」材
- 「マングローブ」皮
- 「ガンビア」

是ヲ要スルニ單寧ハ低温ニテハ溶解シ難ク温度ノ上昇ト共ニ溶解量ヲ増スモノナレトモ或ル一定ノ適温ヲ超ユルトキハ折角溶解シタル單寧ハ更ニ分解シテ損失ヲ招クヲ以テ單寧材料ノ浸出ニ當リテハ宜シク其適温ヲ選フヘキナリ

第二編 各論

第一章 海驢皮鞣製法

海驢 *Eumetopias stelleri*, Less. ハ北海道樺太千島ノ近海及島根縣竹島附近ニ群棲シ五月頃産兒ス成長セルモノハ容易ニ捕獲シ難キカ故ニ五月頃ニ産マレタル兒ヲ八九月ノ頃ニ銃殺或ハ撲殺スルヲ普通トス斯ノ如キ幼獸ノ皮ハ大抵七乃至八坪位ナレトモ老獸ノ皮ハ五十坪以上ニ及フモノアリ體色暗褐色ニシテ美麗ナラサルカ故ニ多クハ革ニ製造ス

原料皮トシテ製革場ニ送ラルルモノハ凡テ鹽藏セララルルモノニシテ大抵脂肪層ヲ附着セルママナルカ故ニ之ヲ水漬スルニ先チ脂肪層ヲ除去セサルヘカラス然ラサレハ後段ノ作業ニ極メテ不便ナルノミナラス鹽抜困難ナレハナリ次ニ水漬ヲナセハ毛生面ニ多量ノ脂肪ヲ浮出スルヲ以テ皮ヲ蒲鋒臺上ニ取り鈍刀ニテ脂肪ヲ擦リ去リ更ニ水漬ヲナシ再三毛生面ノ脂肪ヲ去リ又肉面ヲ強ク銚打シテ可及的脂肪ヲ除クニ勉ムヘシ斯ノ如ク水漬ヲ行フコト一乃至二日ニシテ皮ノ重量ニ對シ一%位ノ炭酸曹達ヲ温湯ニ溶解シ之ニ皮ヲ投入シ以テ表面ノ脂肪ヲ除去シ然ル後石灰漬ヲ行フ即チ皮ノ

各論

重量ニ對シ一五乃至二〇%ノ石灰ヲ消化シ皮ヲ浸スニ充分ナル量ノ水ヲ加ヘ之ノ中

ニ皮ヲ浸漬スルコト約二十日間ニシテ石灰漬ヲ終ル茲ニ於テ皮ヲ取出シ脫毛シ肉面
ヲ適度ニ漉キ水洗ス次ニ裏漉セル皮ノ重量ニ對シ五乃至八%計リノ鳥糞ヲ温湯ニ溶
解シ數日温所ニ放置シタルモノノ中ニ入レテ一夜ヲ經過スレハ皮ハ全ク弾力性ヲ失
ヒ柔軟ニシテ自由ニ疊ミ得ル状態トナル是レ石灰戻ノ充分ナルヲ證スルモノナリ茲
ニ於テ取出シ水洗シ肉面ヲ強ク銼打シ更ニ漉板上ニ銀面ヲ上ニ向ケテ載セ石擦ヲ行
ヒ以テ脂肪石灰石鹼及汚物ヲ除去ス斯クテ後炭酸曹達或ハ礬砂ノ稀薄液ニテ洗滌シ
可及的脂肪ヲ去ルニ勉ムヘシ次ニ水洗スレハ直ニ鞣製工程ニ移スコトヲ得但シ此ノ
後更ニ皮ノ重量ノ五%計リノ麩ヲ用キ其ノ醱酵液ニテ處理スレハ一層良好ナリト雖
モ必スシモ之ヲ行フヲ要セス

鞣製法ハ目的トスル製品ノ種類ニヨリテ適當ニ選ハサルヘカラス即チ鞣類ノ如ク大
抵「シボ」ヲ必要トスルモノ或ハ靴革ヲ製スルニハ植物鞣皮法ヲ行フヘク靴鼻緒及特別
ノ「シボ」ヲ要セサル袋物用等ニハ「クローム」鞣皮法ヲ施スヲ可トス
植物鞣法「スマツク」「ガンビア」等ノ如ク收斂性弱キ單寧材料カ或ハ數回使用シタル古
キ單寧液ヲ以テ五乃至八度 Bkr.ノ液ヲ作り之ニ豫備工程ヲ終レル皮ヲ浸シテ銀面ヲ適

度ニ固定セシメタル後解皮「ミモ」サ皮其他ノ收斂性稍強キ單寧材料ヲ隔日位ニ加ヘ
テ徐々ニ濃度ヲ高メ以テ二十日後ニハ一五乃至二〇度 Bkr.位ニ達セシメ尙ホ數日間液
中ニ浸漬シ置クヲ可トス然レトモ海驢皮ハ銀面ノ極メテ強靱ナルト且ツハ組織ノ密
ナラサルノ故ヲ以テ最初ヨリ收斂性稍強キ單寧材料ヲ使用スルモ大ナル妨ケ無キカ
如シ而シテ冬季ニハ單寧ノ滲透極メテ遲緩ナルカ故時々熱ヲ與ヘテ二五度位ニ加温
スルヲ要ス斯クテ單寧カ皮ノ中心迄一樣ニ充分ニ滲透スレハ取出シ微温湯中ニ投シ
テ表面ニ附着セル單寧ヲ洗除シ後適宜ニ染色ス染色ニ當リテ太鼓ヲ使用スルトキハ
四五度内外ノ温湯ニ革ヲ浸シ充分水ヲ含マシメタルモノヲ直ニ太鼓ニ入レ蓋ヲ施シ
テ廻轉セシメ之ニ太鼓ノ軸孔ヨリ染液ヲ注入シ三〇分間處理スヘシ染料ノ使用量ハ
色ノ種類及希望スル色合併ニ革ノ厚薄等ニヨリテ異ナレトモ概言スレハ十坪位ノ革
一枚ニ付キ約一五瓦ノ割合ナリ又刷毛染ヲ行ハンニハ濃度〇五乃至一%内外ノ染液
ヲ作り之ヲ七〇乃至八〇度ノ温度ニ保チテ水コキセル革ニ塗ルヘシ然レトモ黒染ノ
場合ハ二%ノ液ヲ使用スルヲ要シ染料ノ種類ニヨリテハ適量ノ黄色染料ヲ加ヘサレ
ハ良好ナル黒色ヲ發セシムルコト能ハサルモノアリ又「ログウード」黒染ノ方法ハ第一
編第二章ニ示セル所ト同様ナリ染色後眞鍮押ヲ以テ水コキシ竿ニ懸ケテ乾燥ス此際

各論

加脂ノ必要無シ、但シ乾燥中眞鍮押又ハ鋼鐵押ヲ以テ數回處理スルハ勿論ノコトナリ
 斯クテ乾燥後光澤液ヲ塗り光澤機ニカケテ艶ヲ出シ更ニ適宜ニ揉ミテ「シボ」ヲ出スト
 同時ニ柔軟トナシ以テ製了ス

「クローム」鞣法。作業ノ方法ハ總論ニ於テ述ヘタル所ト全ク同様ナルカ故記載ヲ略ス
 但シ海驢皮ハ脂肪ノ含量多ク隨テ豫備工程ニ於テ全然脱脂スルコト不可能ニシテ革
 ニハ幾分ノ脂肪ヲ含ミ且ツ組織粗糙ナル爲メ加脂ヲ行ハストモ硬固ナラス故ニ加脂
 量ハ牛革等ノ約半量ニテ可ナリ即チ豫備工程ヲ終レル皮ノ重量ニ對シ「オリ」油又
 ハ「蓖麻子油」〇・五%軟石鹼〇・五%ヲ用キ之ニ少量ノ「カセイ」或ハ「卵黃」ヲ加ヘテ「エマ」
 「シヨ」ラ完全ナラシムヘシ。但シ酸性染料ヲ使用スルトキハ「カセイ」ヲ用フヘカラス
 植物及「クローム」結合鞣法。本法モ亦總論ニ記述セル所ト同様ナルカ故茲ニ贅セス而
 テ加脂量ハ「クローム」鞣法ニ於ケルト同様ナリ。吾人ハ本法ニ就キ二三ノ實驗ヲ行ヒシ
 カ満足ナル成績ヲ見ルヲ得サリキ
 海驢皮ノ鞣皮工程中ニ於テ皮ノ重量及坪數ヲ測レリ其ノ實驗ノ結果次ノ如シ

實驗 其一

項目	一號		二號		三號		四號		五號		平均	
	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數
鹽皮	一・二二〇	五・三	一・三二〇	七・一	一・二五〇	五・九	一・四二〇	六・二	一・四五〇	八・〇	一・三二〇	六・五
脂肪層削後	〇・七一〇	六・五	〇・九八〇	八・三	〇・七〇〇	六・四	〇・七三〇	六・九	〇・八四〇	八・五	〇・七九〇	七・三
水漬後毛生面ヲ銚打シテ脂肪ヲ除キタル後	〇・六八〇	丁	〇・九五〇	一	〇・六八〇	一	〇・六九〇	一	〇・八〇〇	一	〇・七六〇	一
石灰漬後	一・三〇〇	一	一・七五〇	一	一・二五〇	一	一・三〇〇	一	一・四七〇	一	一・四一〇	一
脱毛後	〇・九五〇	一	一・三三〇	一	〇・九二〇	一	〇・九八〇	一	一・〇七〇	一	一・〇五〇	一
裏漉後	一	一	一	一	一	一	〇・六三〇	一	一	一	一	一
石灰戻後	〇・五二〇	八・九	〇・七二〇	一・二二	〇・五六〇	八・六	〇・五三〇	九・六	〇・六二〇	一・〇〇五	〇・五九〇	九・九
植物鞣法製了後	〇・二四六	七・四	〇・三二〇	九・二	〇・三二七	七・〇	〇・二六〇	七・二	一	一	一	七・七
對鹽皮割合(%)	二・〇二	一・三九	二・四二	一・三〇	一・九七	二・一九	一・八三	一・一六	一	一	二・〇六	一・二六
對石灰戻後割合(%)	四・七三	八・三	四・四四	七・五	四・〇五	八・一	四・九〇	七・五	一	一	四・四六	七・七

備考 脂肪層削屑ハ一枚平均五百匁裏漉屑ハ平均四百匁其乾燥物八十匁ナリ

實驗 其二

鹽	脂肪層削後	植物鞣法製了後	對鹽皮割合 (%)		重量	坪數
			對	鹽		
皮	皮	皮	二二四	一一一	二八〇〇	八〇
皮	皮	皮	一一一	一一一	一三〇〇	八〇
皮	皮	皮	二二四	一一一	〇三二〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一〇一〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一
皮	皮	皮	二二四	一一一	一三〇〇	一〇一

實驗其三 (十枚平均)

鹽	脂肪層削後	脫毛裏漉後	石灰 戻後	植物鞣法製了後	對鹽皮割合 (%)	
					對	鹽
皮	皮	皮	皮	皮	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	一一一	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	一一一	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	一一一	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	一一一	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	皮	一一一	一一一

對脂肪層削後割合 (%)

二四〇
三九〇
一一四

對石灰戻後割合 (%)

備考 脂肪層削後ハ一枚ヨリ平均一五〇〇貫ヲ得ヘク之ヨリ約六〇%ノ油ヲ採製シ得ヘシ故ニ鹽皮一枚ヨリ〇九〇〇貫ノ油ヲ得ヘシ裏漉層ハ一枚ヨリ一〇七〇貫ヲ生シ此ノ乾物〇二〇三貫ナリ

實驗其四

鹽	脂肪層削後	「ビツクリング」後	「クローム」ニ浴鞣法製了後	對鹽皮割合 (%)		重量	坪數
				對	鹽		
皮	皮	皮	皮	二二四	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	一一一	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	二二四	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	一一一	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	二二四	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	一一一	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	二二四	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	一一一	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	二二四	一一一	二二四	一一一
皮	皮	皮	皮	一一一	一一一	二二四	一一一

實驗其五 (五枚平均)

各論

海獸魚皮鞣製法

鹽 皮 重量 坪數

脂肪層削去後 三〇〇〇 八・五坪

脫毛後 一・三二〇 八・九坪

裏漉後 一・八九〇

石灰後 〇・九六〇

「クローム」一浴法製了後 〇・七一〇

對鹽皮割合(%) 〇・三四五

對石灰灰後割合(%) 八・〇二

副產物 海驢皮ノ鞣製ニ當リ副產物トシテ得ラル、モノハ脂肪層ヨリ採製セラル、油及裏漉屑ヨリ製造セラル、膠是レナリ、今原料皮ノ重量三貫匁内外ノモノヲ以テ標準トスレハ其ノ一枚一貫五百匁乃至二貫匁ノ脂肪層削屑ヲ生ス、而シテ此削屑ニ蒸取法ヲ行フトキハ約六割即チ一貫匁計リノ油ヲ採集シ得ヘシ、然レトモ海驢油ハ産額多カラサル故他ノ魚油ニ混合シテ販賣スルノ外策無キヲ以テ其價格勢ヒ低廉ナラサルヲ得ス、今假ニ油百斤ヲ六圓ト見積レハ一貫匁ノ價ハ三十七錢五厘ナリ、脱毛後ノ裏漉

屑ハ平均一枚一貫匁ヲ得ヘク此ノ屑ヲ乾燥スレハ二百匁内外トナルヘシ今此ノ價ハ十貫匁五圓ノ相場(牛皮ノ)ニベハ七圓乃至九圓ナリ)ヲ有スルモノトスレハ二百匁ノ價ハ十錢ナリ

抗張力及延伸度 調帯底革、甲革等ノ如ク力ノ加ハル場所ニ使用スル革ハ抗張力飽ク迄強カルヘク延伸度大ナルヘカラス殊ニ底革及調革ハ延伸度可及的少ナルヲ要ス、然レトモ鞣類袋物類ノ如ク使用ニ當リテ力ヲ加ヘサル革ハ外觀ヲ重シ是等ノ點ニハ或ル程度迄ハ考慮ヲ費スノ要無キモノトス、次ニ海驢革ノ抗張力及延伸度ヲ示シ更ニ比較ノ爲メ牛革ノソレヲ表示セン

第一表 海驢革

種類	抗張力	延伸度
縱或ハ横	二・七七	五〇%
縱	二・七二	七〇
製	二・五八	五〇
横	二・二三	四五
横	二・二八	五六
縱	二・一三	一一五
各論	二・六八	

海獸魚皮鞣製法

「クローム」浴製

縦 横 横 横 横 横 横

二九六

「クローム」浴製

縦 縦 横 横 横 横 横

〇七七

單寧及「クローム」結合製

縦 縦 横 横 横 横 横

〇九八

備考

抗張力ハ革ノ断面ノ面積ニ對シ此ノ革ヲ牽引シ切斷スルニ要スル力ヲ肝ニテ表シ延伸度ハ革ヲ牽引シテ切斷スル迄ニ延伸シタル長サヲ原物ノ長サニ比較シ之ヲ百分率ニテ表示セリ但シ試験ニ與カル部分ノ長サヲ長サ及幅ハ夫々六〇「ミリメートル」及二五「ミリメートル」ナリ又本表供試

二四五

一七九

二八三

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

一七九

二四五

種

海驢革

抗張力

延伸度

材料ハ皆縁邊ノ部分ヲ取リシモノニシテ單寧及「クローム」結合製ノ革ハ品質最モ不良ノモノナリキ

單寧製

縦 縦 横 横 横 横 横

三・八三

四二%

二・九一

三五

三・〇二

四三

三・六二

五〇

五・三〇

五〇

四・七九

三八

二・二一

六二

一・七〇

六二

五・七三

五〇

五・五三

五〇

二・七四

六〇

各論

「クローム」浴製

横 縦 縦 横 横 横 横

一一七

「クローム」浴製

横 横 縦 縦 横 横 横

單寧製

横 横 横 横 横 横 横

「クローム」浴製

横 横 縦 縦 横 横 横

「クローム」浴製

横 縦 縦 横 横 横 横

(横)

二六三

六二

一一八

備考 本表供試材料ハ革ノ中央部分ヨリ取レリ

第三表 牛革

種類 縦或ハ横

抗張力

延伸度

單寧製調帶A | 二八三

同 上 B | 二九八

明礬製加脂調帶 | 八三五

明礬製「ローハイド」革 | 九二二

上等「クローム」革 | 七四〇

下等「クローム」革 | 二三四

「クローム」溶製A | 四一九三

同 上 B | 三六〇〇

同 上 C | 三八四四

同 上 D | 三四五一

同 上 E | 三五五六

二五%

二一四

三八三

三一四

三二五

二二〇

三〇

二二

四二

四二

四一

三五

同 上 D 横 縦

二八一四

四二

同 上 B 横 縦

三八一五

三九

同 上 C 横 縦

三〇一五

三六

同 上 E 横 縦

三〇五四

三五

「クローム」溶製A 横 縦

二八四二

四一

同 上 B 横 縦

三一一〇

三四

同 上 C 横 縦

二四三七

四〇

同 上 D 横 縦

二七六九

三八

同 上 E 横 縦

二〇九一

四八

同 上 B 横 縦

三七五七

四六

同 上 C 横 縦

三〇二七

四〇

同 上 D 横 縦

二五三八

四〇

同 上 E 横 縦

二二二二

二四

備考 本表ニ於テ單寧製調帶以下六種ハアイトナー氏ニ據リ「クローム」溶製以下ハ植村東彦氏ニ據ル

各論

以上三表ニ由リテ之ヲ觀レハ海驢革ノ抗張力ハ其ノ縁邊ニ於テ稍薄弱ナリト雖モ中央部分ニ於テハ可成リ強ク殊ニ縦ノ抗張力ハ牛革ノソレニ優レルヲ見ル故ニ海驢革ハ靴甲革トシテ適スルカ如シト雖モ組織ノ粗糙ト延伸度過大トノ缺點アリ故ニ海驢革ハ靴類ヨリモ鞆袋物類ニ適當ナルモノト認ム

第二章 海豹皮鞣製法

海豹 *Phoca vitulina* L. ハ樺太、北海道、千島及本州東北ノ近海ニ産スレトモ群棲セサルカ故ニ其ノ捕獲多カラス、體色種々アリ多クハ黃白色ニ黑色ノ斑紋ヲ有シ光澤アリテ恰モ豹ニ似タリ、然レトモ白色、灰白色或ハ褐色ト黑色トノ斑紋ヲナセルモノモ少ナカラズ。美麗ナルカ故ニ毛革ニ製スルコト多ケレトモ然ラサルモノハ革トナス而テ革ハ他種ノ革ノ模倣シ能ハサル特種ノ「シボ」ヲ有シ外觀美ナルヲ以テ袋物用ニ適當セリ

第一節 革

海豹革ハ前述ノ如ク袋物用トシテ最適ナルカ故ニ植物鞣法ヲ施スニ若カス而テ其製法ハ海驢革ニ於ケルト全然同一ナリ故ニ鞣法ノ記載ヲ略ス鞣皮工程中ニ於テ皮ノ重量及坪數ヲ測レリ即チ試驗セシ結果ヲ示セハ次表ノ如シ

量及坪數ヲ測レリ即チ試驗セシ結果ヲ示セハ次表ノ如シ	一號		二號		三號		四號		五號		六號	
	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數	重量	坪數
鹽 皮	1.150	4.6	1.090	3.7	2.050	7.5	2.320	6.2	1.920	6.7	1.290	4.7
脂肪層削後	0.640	4.8	0.740	4.5	1.920	1.09	1.270	7.7	1.440	9.6	0.970	6.0
石灰漬後	1.050	1.360	1.360	3.700	1.800	2.640	2.830	1.750	1.540	1.540	1.540	1.540
脫毛後	0.760	0.900	0.900	2.680	1.800	1.800	2.200	1.600	1.080	1.080	1.080	1.080
裏漉後	0.650	0.700	0.700	1.800	1.800	1.800	1.800	1.800	1.800	1.800	1.800	1.800
石灰戻後	0.590	6.2	0.660	5.9	1.580	2.27	1.200	8.4	1.400	1.03	0.950	7.6
石灰戻後銚打シ	0.470	0.480	0.480	1.360	0.940	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150
石灰戻後銚打シ後	0.600	1.0650	1.0650	1.550	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150
單寧液ヨリ引上ケ	0.600	0.650	0.650	1.550	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150	1.150
洗滌水切後	0.212	7.6	0.235	5.7	0.580	1.34	0.450	9.7	0.545	9.2	0.330	8.7
製了後	1.84	1.652	2.25	1.540	2.83	1.786	1.94	1.564	2.84	1.372	2.77	1.851
備考	脫毛後ノ裏漉不充分ニテ肉厚キニ過キタルヲ以テ單寧液ニ浸漬後更ニ裏漉ヲナシタレトモ其際ノ重量ノ記述ヲ失シタリ											

各論

皮膚ノ他或ル種ノ水産哺乳類ノ内膜組織モ亦製革ノ目的ニ使用セラル殊ニ未開人ノ間ニ於テ然リトス。内膜組織ノ中主ナルモノハ、柄臘獸、海豹、海驢及「セイウチ」ノ食道、胃及腸等ニシテ、食道ハ手袋類ニ製造セラル

此等内膜ノ最モ重要ナル用途ハ、防水衣ノ製造ニアリテ、其ノ原料ハ主トシテ海驢ノ腸ヲ使用ス。防水衣ヲ製スルニハ、腸ノ一端ヲ摺シ他端ヨリ空氣ヲ吹き込ミテ脹ラシ乾燥シ後縦割シテ幅三四吋ノ帶トナス。此ノ帶ヲ緻密ニ縫ヒ合ハセテ所要ノ防水衣ヲ製スルナリ。此ノ防水衣ハ頗ル丈夫ニシテ護謨製ノモノヨリ強ク而モ同等ノ防水力ヲ有ス。而シテ油類ニヨリ害ヲ受クルコトナシ

アラスカノ「エスキモー」ハ「セイウチ」ノ腸ヲ以テ「ビダラ」ノ帆ヲ製ス。此帆ハ重サ四封度ニ過キサレトモ甚タ強靱ナリ

海獸魚皮鞣製法終

大正二年十一月十八日印刷
大正二年十一月廿一日發行

編纂者 農商務省水産講習所

發行兼印刷者 野田千太郎

東京市芝區松本町四十四番地

印刷所 三田印刷合資會社

東京市芝區松本町四十四番地

發行所

水産書院